

事業報告書

一般社団法人 豊川青年会議所

2020年度 副理事長兼

とよかWA情熱爆発室 室長

氏名 中村尚人

写真
(正装)

<本年度を振り返って>

昨年の今頃、仲間と共に「豊川ブランドの創造」と、「新たな仲間との出会い」に、期待を膨らませていました。しかし全世界を襲ったコロナウイルス感染症の拡大により、予定をしていた活動は制限され、未来にも輝き続けるまちへの期待は、先行きの見えない不安に変わってしまいました。それと同時に、今までの当たり前が、どれだけ幸せだったかにも気付くことができました。当たり前という日常に変化が起きた時こそ、豊川青年会議所として失敗を恐れることなく行動し続け、強いまち豊川を牽引する責務を痛感した一年でした。

<金子特別委員会>

拡大活動は、金子特別委員長の巻き込み力と委員会メンバーのチームワークにより、LOMメンバーから多数の紹介をいただき、拡大スタートと同時に仮入会員は20名を超え、月1回の懇親会を通して20同期の懇親は確実に深まっていました。しかしコロナウイルス感染症拡大により、仮入会員の懇親の場は設営できず、拡大面談も出来ない状況になってしまいました。当初掲げていた「全LOM体制」は実現できませんでしたが、コロナ渦にも関わらず金子特別委員長の行動し続ける姿に、委員会メンバーも心が動かされ拡大委員会は「自然と人が集まる魅力的な場所」になりました。そんな魅力的な場所に集まった19名の新入会員は、WEB懇親会や11月例会の準備を通して確実に「仲間」となり、最高の20同期となりました。誰もが経験したことのない危機的状況においても、見事11月例会を開催した20同期メンバーは、次年度以降の活動においても、それぞれの委員会で課題を可能性に変えることのできる人財です。

一年を通して、委員長の圧倒的なリーダーシップとユーモアで笑いが絶えなかった金子特別委員会は、新入会員だけでなく委員会メンバーの意識変革も実現し、次年度以降も「自然と人が集まる豊川JC」を体現してくれることを期待しております。

<星川委員会>

「日本一の道の駅とよかわ」を目指していた星川委員会は、群馬まで片道7時間をかけて現場調査に行き、そこで得たヒントを活かし本当に観光者が「豊川に行きたい」と思ってもらうための事業計画は、新型コロナウイルス感染症拡大により、諦めざるをえませんでした。しかし星川委員会は「コロナウイルスに目標を絶たれた」委員会だからこそ、行動を止めず何度も何度も議案を作成し、地域を引っ張る豊川青年会議所の在り方を体現してくれました。立案5日で審議可決し開催した「トヨカワイーツ」では、星川委員会の「豊川を愛するまっすぐな想い」が委員会の垣根を越え、出店業者、来場者と、人と人の繋がりが生む感謝の輪は着実に地域に広がっていきました。9月公開例会「STOPコロナ差別」では、ウイルスという見えない不安を安心に変えるべく「正しい知識と思いやりの行動」を動画やポスターなど目に見える形にすることで、例年にはない数多くの後援団体とパートナーシップを結ぶことにも成功し、動画再生回数も2万回を超えるなど着実に地域に求められた運動を展開しています。

一年間の委員会活動を通して「観光者が行きたいと思う豊川市」の実現はできませんでしたが、「市民が互いを思いやる豊川市」の実現はできたことを誇りに思います。

<むすびに>

「努力に限りなし」

全く想像することができなかった一年を通して、この言葉の意味を再認識しました。誰もが失敗をしたくないし、批判されたくない。そんな苦しいコロナ渦だからこそ勇気をもって踏み出す一歩には、価値があり、人々の心を動かすことができます。2020年度に豊川JCが展開した事業そのものが、価値ある一歩であり、未来にも輝き続けるまちの礎を気付くことができたと思います。

全ては仲間がいたから！！

とよかONE TEAM！！